

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 メジカラネット

事業名 足元から考える若葉区の災害時バリアフリー～高齢・障がいなど多様なく要支援>に目を向けて～

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	C
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	C
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 川井団地むつみ会

事業名 地域の支え合いと活性化事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 都賀の台おにぎり倶楽部

事業名 【R3】みんなでごはんを食べる会

【R4～】誰もが住み慣れた街で、永く健康に住み続けていくための事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	A
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 加曽利貝塚ガイドの会

事業名 縄文紙芝居の作成・公演を通して、幼稚園児・保育園児、障がい者・高齢者が縄文文化に親しみを持ち、加曽利貝塚を中心とした地域史跡を大切にすることを養う事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

様式第3号
若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 NPO法人ちば環境情報センター

事業名 【R4】谷津田ビジターセンター はじめの一步【R5】ようこそ谷津田へ 谷津田の食・農・自然・くらしを丸ごと楽しもう【R6】森と土 恵みに感謝！

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 まるまるキッチン

事業名 キッチンカーによる地域交流・多世代交流事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	A
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 工房 小倉ファーム

事業名 土から育てる衣服作り(紡ぐ・染める・織る)を通して、縄文時代の知恵と魅力を体験しよう！

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A:計画を上回って実施できた B:計画どおり実施できた C:計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A:達成できた又は達成に十分つながった B:達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C:達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A:制度の目的に十分に寄与するものだった B:制度の目的に多少は寄与するものだった C:制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A:様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B:小規模ではあるが一定のPRが行われた C:PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部(他団体、地域住民など)との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A:外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B:外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C:外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A:団体として具体的な計画を立てている B:団体としての動きが多少ある C:継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 おやこぷれいす ちるる

事業名 子育て世代と高齢者の触れ合い交流事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項
